

佐渡金銀山ガイドンス施設(仮称)整備基本設計検討書

概要版

平成 29 年 3 月

新潟県佐渡市

基本設計の目的

「佐渡金銀山遺跡」は、平成6(1994)年、道遊の割戸をはじめとする7カ所8件が史跡指定されました。その後も関連する文化財を国史跡、重要文化財及び重要文化的景観として指定あるいは選定し、佐渡市が、国、新潟県民間団体等、多様な関係機関と相互に連携を図りながら保存管理を進めています。

佐渡金銀山遺跡の世界遺産登録については、平成10(1998)年に「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」が設立され、登録に向けた取り組みが本格化し、平成22(2010)年6月に「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」(以下、「佐渡金銀山」という。)として、世界遺産暫定一覧表に追加記載されました。

本基本設計は、平成26年度策定の佐渡金銀山ガイダンス(仮称)基本計画に基づき、「佐渡金銀山遺跡」がもつ世界遺産としての顕著な普遍的価値、世界遺産登録を目指している構成資産等について、それらを分かりやすく解説するガイダンスの機能と、今後増加が見込まれる来訪者のビジターセンター的機能を併せ持つ「佐渡金銀山ガイダンス施設(仮称)」を整備するための基本的な考え方、施設の整備方針等を基本設計として取りまとめることを目的とします。

なお、ガイダンス施設は構成資産等の見どころも多く視覚的に楽しむことができ、来訪者が佐渡金銀山に興味を持ってもらうきっかけづくりの場所として最適である相川地区に整備します。



佐渡金銀山ガイダンス施設(仮称)整備の考え方

1) 計画地の特徴

計画地は相川地区に所在する旧佐渡会館跡地です。

同地は隣接する相川公園北側で駐車場が確保でき、また相川下町や各構成資産・関連施設に近いことからアクセス性や利便性が高く、まちとの連携が図りやすいこと等がその特徴、利点として上げられます。



計画地・計画地周辺図

佐渡金銀山ガイダンス施設(仮称)整備の基本理念

1) 「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の特徴

歴史の重層性

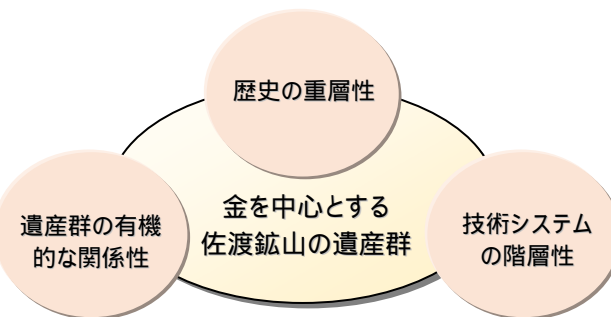
・西三川砂金山、鶴子銀山、相川金銀山の3つの鉱山を中心とした7つの構成資産は、400年間に及ぶ金生産技術の発展過程と、それを支えた社会の歴史が遺跡・遺構として良好に保存されています。

遺産群の有機的な関係性

・構成資産は、性格の異なる3つの鉱山と、それぞれの鉱山によって成立・発展した集落・町、石切場、港、発電所によって構成され、それらが広範囲に点在します。各資産の価値は単独に成立するものではなく、一連のシステムとして、有機的な関係性を持っています。

技術システムの階層性

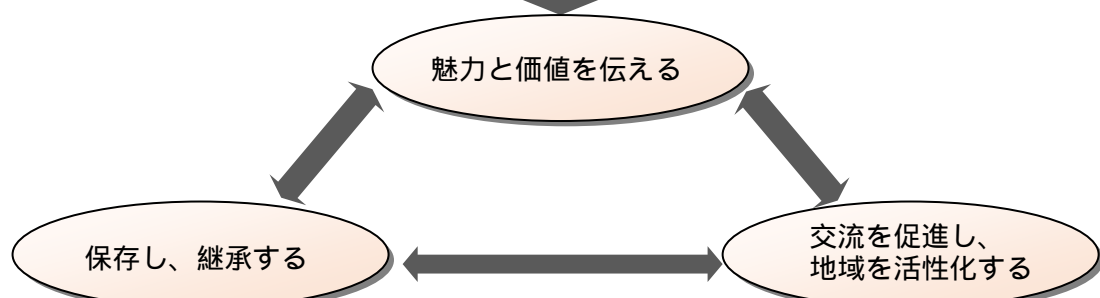
・砂金と鉱石というそれぞれの鉱床に応じて発展した金生産技術は、手工業による小規模生産から機械化による大規模生産へと展開した生産体制と相まって、多様かつ特徴的な技術システムを形成しました。



2) 佐渡金銀山ガイダンス施設(仮称)整備にあたっての基本理念

< 佐渡金銀山ガイダンス施設(仮称)整備にあたっての基本理念 >

400年間にわたり保存されてきた佐渡金銀山の魅力や価値を広く周知するとともに、多くの人々が交流し、未来へと継承するための拠点づくりを推進する



2) 施設整備の基本的な考え方・基本方針

(1) 整備の基本的な考え方

佐渡金銀山ガイダンス施設(仮称)は、佐渡金銀山の史跡としての価値を伝えるとともに、情報発信や地域のコミュニティの拠点となることを目指します。

相川地区周辺の史跡への出発点としての玄関口

・金を積出した海(港)から佐渡へ渡ってきた来訪者に対し、佐渡金銀山へいざなうゲートウェイとして位置づけます。
・来訪者は海(駐車場、バス停)からガイダンス施設へ至り、史跡の価値を知り、情報を収集した上で現地へ向かいます。



まちと来訪者を結ぶ結節点

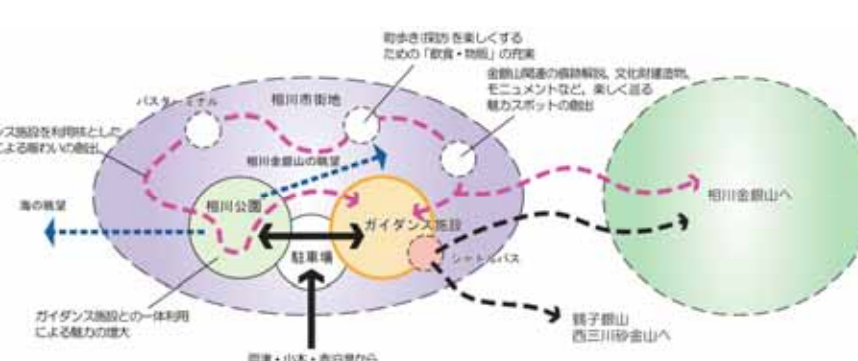
・来訪者がまちに繰り出すための基本情報として、史跡、町歩き(探訪)、物販・飲食等の魅力情報を提供し、楽しく町歩きをするための結節点として位置付けます。
・史跡や町並みをゆっくり楽しむためのパーク&ライド等、公共交通機関への誘導情報の提供を行います。

まちのネットワーク拠点

・地域住民によるガイドを行う等、地域住民の積極的な参加により来訪者との交流の場とするとともに、就業の機会を設け地域の活性化に寄与する拠点とします。
・地域住民が自然に集まる居心地の良い場を提供し、また相川公園との一体的な利用を考慮し、まちの賑わいを創出する場とします。

自然環境に対する配慮

・厳しい自然環境下であることから、海からの北西風、塩害などに配慮した建築計画、素材選定、各設備での対応等



佐渡金銀山ガイド施設(仮称)整備基本設計検討書 概要版

に配慮した計画とします。

(2) 整備の基本方針

佐渡金銀山へのゲートウェイ(玄関口)となる施設

- ・佐渡金銀山へのゲートの施設として、誰にでも分かりやすいデザインの明瞭性
- ・周辺の広域交通動線や徒歩周遊動線から視認しやすい

地域のシンボルとなる施設

～地域観光の促進、地域交流の拠点～

- ・周辺の景観・文化等との調和に配慮したデザイン
- ・来訪者と地域住民とのコミュニケーションスペース(交流の場)となる施設と運営
- ・誰もが自由に利用でき、佐渡金銀山に触れる機会を提供する開かれたガイド施設
- ・周辺施設との連携、相川公園との一体利用など、まちの賑わいを創出する拠点施設

維持・管理の容易な施設

～厳しい自然環境を考慮した仕様～

- ・冬期の雪や強風、塩害への配慮
- ・省エネルギー化、メンテナンスが容易な仕様、機器類の採用など、低コスト化に配慮した施設
- ・多様な利用に対し柔軟に対応できるプラン・構造

ユニバーサルデザインに配慮した施設

～高齢者や子供、障害者等にやさしい施設～

- ・大人から子供、身障者、外国人観光客等、誰もが安心・安全に利用できる施設

地域の佐渡産材活用への配慮

～地産地消への取り組み～

- ・佐渡産杉材など地元産材の積極的な活用(地域に根差した、木のぬくもりに包まれた安らぎと落ち着きのある空間の提供)

(3) 諸室構成

必要機能	必要諸室	主な利活用内容	面積(m ²)
展示機能	展示室	佐渡金銀山の価値を伝え現地訪問への興味を喚起するための展示スペース	360
情報発信機能	ガイドステーション ライブラリー ミュージアムショップ	基礎的な情報の提供、見学ルートの案内やガイド付ツアー等の紹介、対応 佐渡金銀山や島内観光に関するAV・図書等による情報の提供 佐渡金銀山に因んだオリジナル商品や書籍などを販売	160
	コミュニケーションスペース	来訪者と地域住民とのコミュニケーションスペース	100
交流機能	多目的室(大)	団体利用者、来訪者に対する体験学習や企画展、地域住民の催し、交流イベント等を開催するスペース	100
	多目的室(小)	各種研修や企画展示、実験などの体験ワークショップなどに利用	30
便益機能	トイレ(授乳室)	一般利用者用のトイレ・授乳室(職員用を兼ねる)	65
保存管理	事務室(世界遺産担当)	世界遺産担当スタッフの事務スペース	30
調査研究機能	会議室	相談対応、管理者等の打合せスペース	20
	事務室(管理運営)	施設管理運営スタッフの常駐スペース	30
管理運営機能	ガイド控室	ガイドスタッフの控室	25
	更衣・湯沸室	スタッフ用の更衣・ロッカースペース、給湯室	20
	倉庫	管理運営倉庫	40
その他	電気室	電気設備、空調設備等の設備室	40
	廊下・風除室等	共用部分	30
面積合計			1,050

佐渡金銀山ガイド施設(仮称)基本設計

1) 建築設計

(1) 建築の基本的な考え方(コンセプト)

ゲートウェイの軸線の設定

- ・本施設は相川周辺の史跡への出発点として、敷地の中央に海側と相川下町を結ぶ佐渡金銀山へのゲートウェイの軸線を設定します。
- ・この軸線は相川のまちへとつながり、来訪者と地域住民による交流を通じ、まちの賑わいを創出する交流広場として、相川の町並みを模した屋外空間を提供します。

対となる2棟の建物構成

- ・各機能は屋外の交流広場を中心に対となる2棟の建物構成とし、平面計画、工期短縮、経費削減の観点から立・断面計画とも極力シンプルな形態とし、2棟の建物により町並みを構成します。

配置・屋根の向き

- ・相川の建物の屋根形状は切妻屋根で、向きは街路に対して多くが平入りで構成されます。
- ・下町で構成される景観との調和を考慮し、下町に向かう新たなゲートウェイの軸線を見立て、この街路に沿って平入りとなる切妻屋根とします。



下町濁川筋・街区屋根伏図



計画地における配置・屋根の向きの考え方



下町の町並み(相川三町目)
(出典:佐渡相川の鉱山都市
景観建築意匠編 2014 佐渡市)

誰もが安心・安全に利用できる施設

- ・建物は平屋とし、高低差を排除することで、来訪者等の負担を軽減します。

(2) ゾーニング・平面計画

展示ガイド棟(展示ガイド機能)

- ・佐渡金銀山の価値を伝える情報発信としての展示室。
- ・基礎情報の提供やガイドツアー等の案内を行うガイドステーション、休憩スペース、ライブラリー、ミュージアムショップ等を配置し、屋内外が一体となった集いの場を提供します。

管理運営棟(管理運営機能)

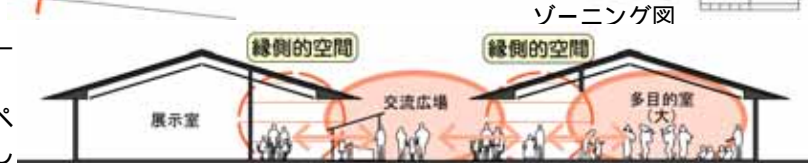
- ・管理運営、保存管理・調査研究機能を持つ管理諸室と、交流イベントの開催や各種研修・ワークショップ等を行う多目的室(大・小)、トイレ等を配置します。
- ・コミュニケーションスペースは各多目的室との一体的な利用、休憩・ギャラリーとして自由に利用できるスペースとします。

屋外交流広場

- ・人々が集い、自然とコミュニケーションが生まれる場を提供します。
- ・広場ではガイド施設や地域のイベントスペースとして賑やかな空間としての利用を図ります。
- ・広場には緑陰樹やテーブル・椅子、縁台等を配置し、来館者が木陰などで自由にゆったりとした時間を過ごせるよう配慮します。

「縁側」的空間

- ・屋外広場側のガラス面を開放し、屋内と屋外が一体的に利用できるようにします。
- ・コミュニケーションスペースや休憩(待合)スペースを日本家屋に見られる「縁側」的な空間として捉え、屋内と屋外、人と人とを結ぶ「縁」を育む場として位置づけます。
- ・イベント時には交流広場を中心に各諸室と一体的な利用ができるよう、交流広場「縁側」各多目的室とつながりをもった配置計画とします。



縁側の空間構成図

「縁」とは
・来訪者と地域住民が織りなす「縁」
・鉱山都市相川の歴史と現代社会をつなぐ「縁」
これらの「縁」は日本家屋に見られる、屋内外を結び開放的な「縁側」(半屋外空間)で育まれる



平面計画図

- ・屋外の開放的な広場では、来訪者が野外卓でくつろぎ、旅の予定や見どころなどの話を楽しんでいる
- ・地元住民によるガイドツアーの出発点として来訪者が集まり期待感が膨らむ

(3) 意匠計画

外観意匠

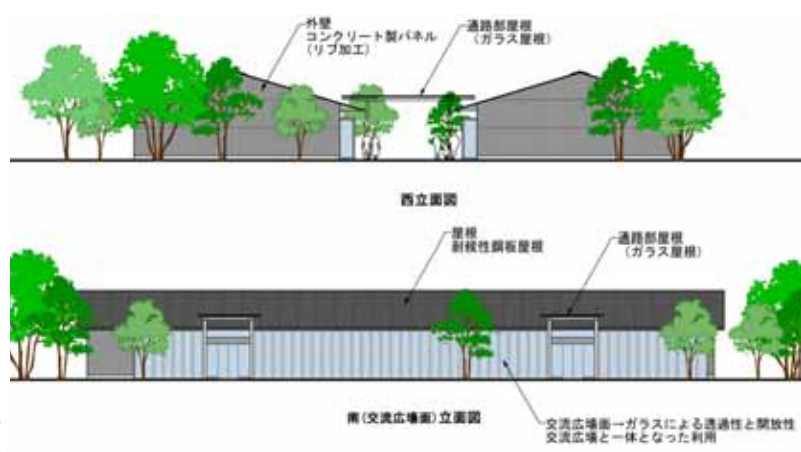
・外観は、佐渡市景観条例に基づき地域の景観に調和した仕様、色彩等とします。ただし、本建物は既存建物の復元を目的とするのではなく、必要以上の付属物を排除し、自然環境に対応した仕様を考慮した外観として考えます。

屋根勾配: 相川の町並みとの調和と周辺景観への影響に配慮します。

外観: 耐久性を考慮した材料を採用するとともに、シンプルな意匠とします。

地域の佐渡産材の活用・・・佐渡産杉材の利用

・来訪者を迎える内部空間では佐渡産杉材を内装材(天井材・壁材等)として積極的に利用し、地域に根差した木のぬくもりが感じられる安らぎと落ち着きのある空間を提供します。



立面計画図

2) 展示計画

(1) 展示の基本的な考え方

「佐渡金銀山」の史跡としての価値を伝える

- ・400年以上の金生産技術及びそれを担った社会の発展の歴史が、史跡としての顕著な普遍的価値を有することを紹介します。

「佐渡金銀山」の全体像とその魅力を紹介・発信する

- ・「佐渡金銀山」が、西三川砂金山、鶴子銀山、相川金銀山、吹上海岸石切場跡、片辺・鹿野浦海岸石切場跡、大間港、戸地川第二発電所の7つの資産で構成されていること、金生産技術システムの発展の歴史、生産技術に合わせた鉱山集落の変遷など、「佐渡金銀山」の全体像とその魅力を紹介・発信します。

「佐渡金銀山」を守り継承していくための取組みを伝える

- ・「佐渡金銀山」を将来に継承し、資産を適切に保全していく取組み・活動等を伝えるとともに、保全活動への賛同・参加を促します。

「佐渡金銀山」を探访するための情報・行動機会を提供する

- ・広範囲に点在し、かつ時代の異なる金生産技術の遺跡・建造物、鉱山集落等の資産を訪れるための必要な情報や、資産を歴史や金生産技術システムなどの流れに沿って探访するための多様なサポートを行います。

(2) 展示テーマ

展示の基本的な考え方に基づき、以下の展示テーマを設定します。

～「佐渡金銀山史400年」への誘い～

16世紀後半から20世紀後半にわたる約400年の歴史を持つ佐渡金銀山には、長い年月によって培われた高度な金生産技術と、それを支えた社会の姿が遺跡や町並みとして良く保存されており、世界の金鉱山の歴史を物語るうえで欠くことのできない稀有な物証である。

ガイド施設では、個別の資産を見学するだけでは理解しづらい佐渡金銀山全体の価値とそれぞれの資産との関連性を、様々な展示手法を活用して丁寧に紐解く。

(3) 展示ストーリー

・・・「佐渡金銀山史400年」への誘い・・・



佐渡金銀山ガイド施設(仮称)整備基本設計検討書 概要版

(4) 展示の基本的な考え方

現地見学前に知ってほしい「佐渡金銀山」の全体像に的を絞った展示

- ガイド施設では、限られた時間の中で来場する来訪者のため、展示は構成資産全体の概要や「金生産技術」「集落・社会」の根幹に関わる部分など、現地では理解しにくい内容、現地見学前にぜひ知ってもらいたい「佐渡金銀山」の全体像の紹介に的を絞ります。また、現地見学で理解できる内容や各鉱山に点在する遺構そのもの、個々の生産技術などの詳細解説は、現地やサテライトガイド施設で対応し役割分担の明確化を図ります。

多様な興味レベルに対応する丁寧でわかりやすい展示

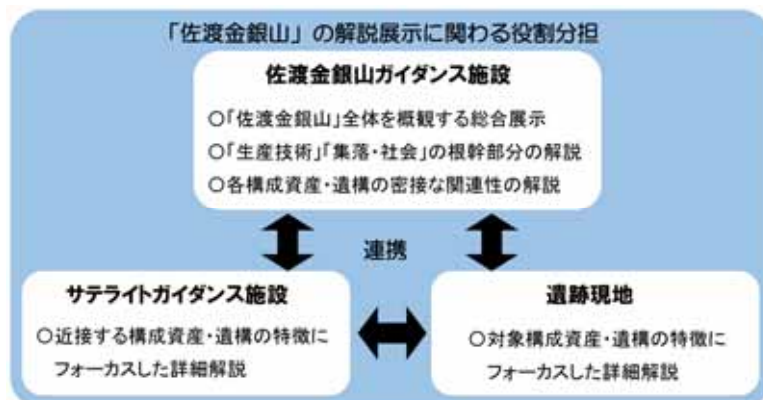
- 来訪者の多様な興味レベルに対応し、「佐渡金銀山」への興味や関心を育むことを念頭に、複雑さを丁寧に紐解き誰もがわかりやすい展示を目指します。

遺構の操業時の姿が容易に想像できる展示

- 各遺構の操業時の役割や実際の稼働の様子が、現地見学の際に容易に想像できる展示を中心に展開し、現地に行きたくなくなるワクワク感が高められるようにします。

遺跡現地やサテライトガイド施設と重複しない展示

- サテライトガイド施設など関連施設で展示している内容のうち、「佐渡金銀山」全体を理解するために必要な情報は、メインガイド施設(佐渡金銀山ガイド施設)でも紹介します。その展示については、先に掲げた考え方に留意し別の視点に立った新たな手法を採用します。



(5) 展示手法の基本構成

鉱山の特徴を理解しやすい「俯瞰性」に優れた展示

有意義な現地見学のためには、「佐渡金銀山」の価値・魅力を知り、興味・関心を深めてもらうため、展示では模型など鉱山の特徴を理解しやすい「俯瞰性」に優れた表現を行い、遺跡・遺構の位置や地形と生産工程の関係など、佐渡金銀山の全体像を視覚的にわかりやすく認識できるようにします。

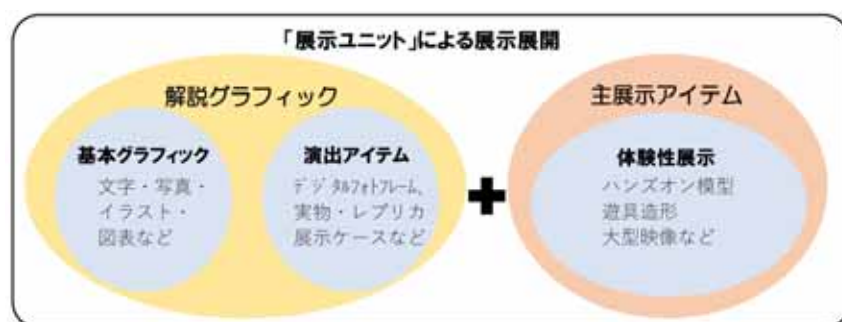
「体験性」を積極的に取り入れた感覚的に理解できる展示

400年にわたって培われた金生産技術の理解には、複雑な生産工程や化学的知識が必要となります。しかし、複雑さを複雑なまま解説するのではなく、「なぜ?」という素朴な疑問から始まり、自ら調べ、発見する喜びを通して佐渡金銀山を理解し、さらに、もっと専門的な事が知りたいと思えるような展示が効果的です。

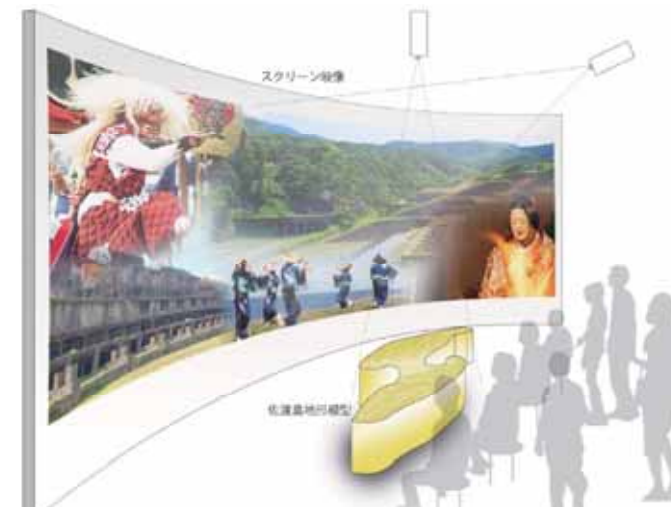
このような目的から、金生産技術の特性を感覚的に理解し興味を持ってもらえるように、ハンズオンなど「五感を使って展示物に触れ、感じ、考える」体験性の高い展示を積極的に取り入れ、実際に現地を見学する際の見どころ(見学の視点)を来訪者に理解してもらうことを目指します。

体験性+解説グラフィックによる「展示ユニット」

映像・模型等の体験展示では、感覚的に理解した内容を補足し、詳しく知るための文字・写真・イラスト・図表等を主体とした解説グラフィックによる紹介も必要です。展示手法では、展示項目を体系的に理解できるように、体験展示を主体に解説グラフィックを併用した「展示ユニット」を基本構成として展開します。なお、解説グラフィックにおいても、デジタルフォトフレームを組み込んだり、実物やレプリカ等をアクリルケース等に入れてグラフィックパネルに組み込むなど、興味を持ちやすい表現を積極的に取り入れます。



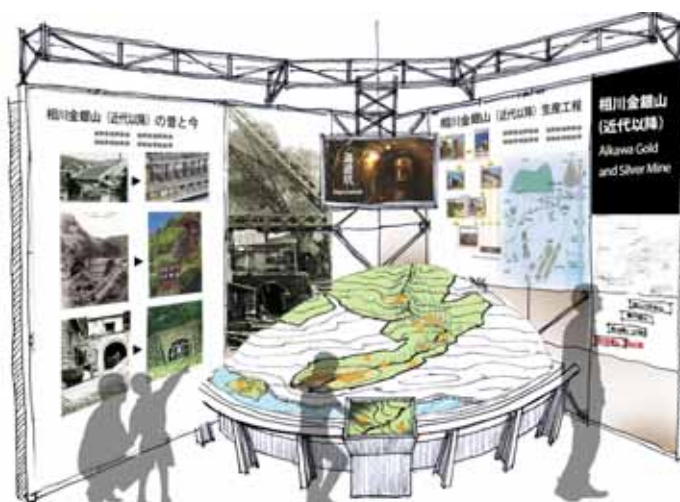
(6) 展示展開案イメージ 変更となる場合があります



プロローグ【佐渡島の誕生と佐渡金銀山】
ガイドシアター



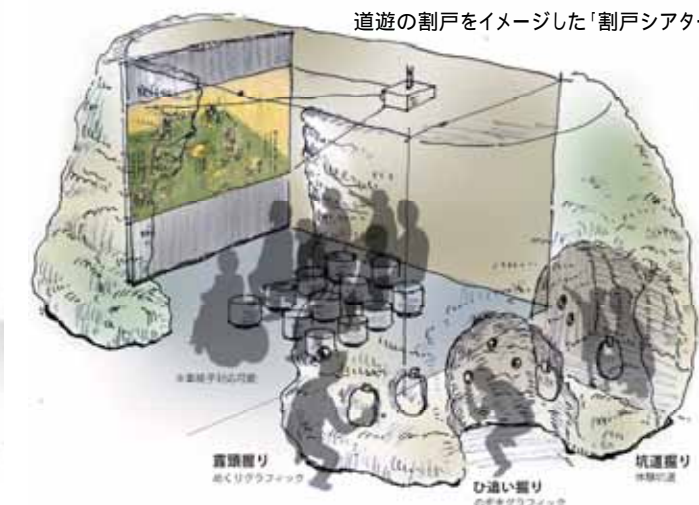
【鶴子銀山・相川金銀山】
金銀鉱石鉱床の成り立ちと特徴
鉱石の硬さが生んだ佐渡独特の鉱山用石磨
小判製造の為にどのくらいの金が必要だったのか
鶴子から相川へ: 拡張・広域化した遺構群



【相川金銀山(近代以降)】
鉱山の近代化と昭和期の大増産期を支えた鉱山施設群



【西三川砂金山】
砂金鉱山の成り立ちと特徴
含砂金層からどれくらいの金が取れたのか
砂金採取によって大きく改変された景観



【鶴子銀山・相川金銀山】
多様な鉱石採掘技術(露頭掘り・ひ追い掘り・坑道掘り)
金生産技術(灰吹法・焼金法)と小判製造
道遊の割戸をイメージした「割戸シアター」



【佐渡金銀山への誘い】
現地見学のための情報提供
(ガイドステーション・ライブラリー)